

清水 信 さんの「遺書」について

平成 24 年 8 月、鈴鹿市文化会館で「戦争遺跡保存全国大会」が開催され、当時 92 歳の文芸評論家 清水 信 さんに記念講演をお願いしました。演題は「戦争の記憶と文学」というもので戦前中国での体験から恩師 小林 秀雄 との思い出や自身の反戦詩を熱く、ときにはユーモアを交えて話されました。

その 5 年後、清水さんは 97 歳で亡くなられ、昨秋（2020 年）が生誕 100 年でした。それを記念した清水さんの展示を鈴鹿市立図書館で 11 月 7 日から 16 日まで開催しました。展示内容は一世紀近くに及ぶ清水さんの長い文学歴を年代順に追ったものでしたが、展示の 5 日前に清水さんの書庫から中国から両親の元に宛てたハガキ 15 枚が見つかりました。

清水さんは昭和 17 年、22 歳のとき明治大学時代の恩師 小林 秀雄 の紹介で中国に渡り、北京大使館へ勤務。帰国したのは敗戦後の昭和 21 年 4 月のことでしたが、この間従軍記者として度々戦地での取材に従事しました。発見されたハガキはこの間のものですが、2 通だけは作家 中 蘭 英助 からのもので彼とは北京で「燕京文学」を創刊しています。

ハガキは概ね両親姉妹たちへの近況等ですが、中には 小林 秀雄 が訪ねてきて食事を共にし、励ましてくれたことなどが書かれ興味深いものもあります。そして、昭和 19 年 5 月には初めて戦争の実態を報告するための従軍を前に両親に次のようなハガキを書いています。この戦争は河南作戦のようでした。

〈消印〉 昭和 19 年 5 月 1 日

〈文面〉 近く作家として戦線に従軍します。依って／遺書／たらちねの／父母のまします／鈴鹿なる／光のどけき／春の日は／天守の森に／六郷辺に／中学校や公園／太郎次郎の家々に／しづこころなく／花の散るらん

- ・父母よわがふるさとは桜花／散りゆくときぞうましかあらずや
- ・我れ独り大和男児に候へば／散るとききなば笑みて給はれ
- ・我が胸に燃ゆる思ひひとひらは／萬朶の花といざかへりなん

この見名付けていはく信、再び曰ひぬ

二六〇四年五月一日／御健康を祈る／三拝

この「遺書」の内容から未知の戦地へ赴く若き日の 清水 信 さんのある種覚悟が詩や歌に詠まれていて、改めて、戦争とは何か、といったものを考えさせられます。その意味で今回遺族の了解を得て戦後 75 年目の昨年紹介させていただきました。（文責 衣斐 弘行）



昭和 17 年北京赴任に際し姉妹との清水氏
伊勢神宮宇治橋前で

鈴鹿海軍工廠・火工部の工場群（平野町）

鈴鹿市平野町には鈴鹿海軍工廠の工場跡が面的に残っています。軍事工場跡が遺跡群として残っているのは全国でも珍しく、三重県ではここだけです。

この場所は鈴鹿海軍工廠の火工部（機銃の弾を作る部門）の一部で、火管^{あつてん}圧填工場が8棟建っていました。火管^{あつてん}圧填とは火薬に高い圧力をかけて固化させることです。現在この場所には工場跡4棟と倉庫3棟が残っています。



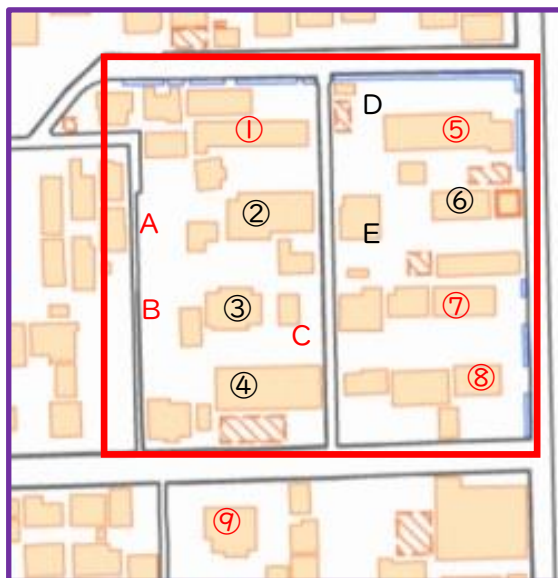
工場跡⑤の内部



工場跡①。2階部分は戦後の増築です

（地図2）遺跡群拡大図（赤字が現存）

（地図1）鈴鹿海軍工廠施設図より



（地図3）遺跡群位置図

地図2の①⑤⑦⑧が工場跡、A～Cが倉庫跡です。

さらに、その南には同じく火工部の火管圧搾工場⑨も残っています。

工場跡⑤⑦⑧⑨は現在も使われているので見学は難しいですが、工場跡①は持ち主の許可を頂けば内部も見学でき、当会でも見学会を開催しています。工場跡①は本田技研の操業後に2階部分を増築してアパートとして使われましたが、19年3月で閉鎖されました。南側4分の1は



倉庫 A



倉庫 B



倉庫 C

惜しくも削られていますが、内部に廊下をはさんで火薬を押し固める作業用の部屋と小部屋が6つずつ並ぶ構造がよく残り、作業用の部屋は火薬の誤爆に備えて厚いコンクリート壁になっていることもわかります。2階部分を撤去すれば当時の工場の外観が現れ、文化財級の戦争遺跡です。

工場跡⑤の内部には高いコンクリート壁が現存します。工場跡⑦はスレート倉庫の中にコンクリート壁が多く残っています。工場跡⑧は東側の住居の中にコンクリート壁が残っています。家主の方がこの工場に愛着があり、自分の意志で住まれたそうです。コンクリートなので夏はとても暑いというお話も聞きました。

○石丸開拓団

地図3を見ると、本田技研がこの一画をよけて工場を作っていることがわかります。本田宗一郎氏は工場を作る時に水田をつぶすことと、住居を立ち退かせることを避けたそうです。この一画には石丸開拓団の大半がすでに工場跡を転用して暮らしていたので、鈴鹿海軍工廠跡地を買収した時もここを除外しました。もちろん開拓団の方々もここを売りませんでした。戦争遺跡群が残った経緯がわかり興味深いです。

石丸開拓団については、2012年7月に跡地②～④にお住まいの伊藤ゆうさん、伊藤実行さん、寺田和子さんにお話を伺い、戦後すぐの古写真10枚を提供して頂きました。

お話によれば石丸開拓団は11世帯で、そのうち7世帯がここに住んでいました。工場跡①だけ空いていて共同風呂として使っていました。ちなみに残りの3世帯は住吉に住み、1世帯は国府にいたそうです。

開拓地は今の本田技研の南の方にあり、ここから歩くと30分近くかかったそうです。土塁に囲まれた装填工場や、その周囲の土地をみんなで分け、1世帯1町2～3反、多い人で1町8反を開拓しました。大きな建物はブルドーザーに壊してもらい、基礎のコンクリートや小さな便所などは割って地面に埋めたそうです。

本田技研が来た時に10何町か開拓した土地を売り、開拓団は解散しました。

工場跡に家を建てた時は、コンクリート基礎の上に柱を立てたので、柱は地面とつながっていなかったそうです。現存する倉庫 AB は芋の貯蔵や犬小屋として使ったというお話も聞きました。

また、工場①と②、③と④、⑤と⑥、⑦と⑧は建物が背中合わせのように対称に作られていたこと、地図2の倉庫 DE は特に大きく3間×6間の煉瓦造りで屋根はスレートだったことも教わりました。

戦後開拓団の記憶も併せて、この戦争遺跡群を大切に残していきたいです。 (文責 岩脇 彰)



工場跡④を南西から撮影した古写真



工場跡③の東側では牛を11頭飼っていた

写真パネルにミニコメントつけて 「平和への祈り展」に参加

11月7日(土)と8日(日), イオンモール鈴鹿2階のイオンホールで開催されました鈴鹿市主催の「2020 平和への祈り展」に参加し、「鈴鹿にも戦争があった」と題して戦争遺跡の写真パネルを展示しました。

今回の祈り展はアニメ「この世界の片隅に」の作者, こうの 史代 さんの「夕凧の街」の原画パネル展がメイン。新型コロナウイルスの影響のため, 日程がこれまでの3日間から2日間になり, 入場者も7日 227人, 8日 203人と少なめでした。そんななかでもみなさんがひとつひとつのパネルをじっくり, じっくりと見ていたのが印象的でした。

戦争遺跡写真パネル展では毎年, 経験者の貴重なお話が聞けたり, 鈴鹿市内にもこんなに戦争に関するものがあるのかと教えられ驚いたりする場ですが, 今回はコロナ禍に気を使って積極的な声かけができず, みなさんとの会話が難しかったのが残念でした。

しかし, 会話ができないならばとパネルにミニコメントを貼り付けてみました。なかなか好評でしたので, 続けていきたいと考えています。次回はみなさんとの会話を楽しみながらゆったりとした時間が流れることを願っています。 (文責 桐生 小百合)



第4回 桜の森公園春まつり, 開催を予定 戦争遺跡ウォークラリーを企画

昨年3月28日に予定した第3回「桜の森公園春まつり～広がれ平和の輪～」はコロナ禍のため中止を余儀なくされましたが, 第4回は4月3日(土)＝雨天の場合は4日に順延＝に開催する予定です。この公園が旧海軍鈴鹿航空隊の跡地であることを市民に知ってもらうことで, 鈴鹿市誕生の歴史を学び, 平和への思いを新たにすることの大事さを催しと考えるからです。

新型コロナを考慮し, ぐにゃぐにゃ凧や紙飛行機などを飛ばす「空に舞う遊び」は取りやめますが, ライブと飲食屋台村は少し規模を縮小して行います。そして今回初めての試みとして, 公園内外の航空隊関連施設跡地をめぐるウォークラリーをしたいと思います。いまは正門, 番兵塔しか残っていませんが, そこを出発点に, 格納庫や滑走路などがあった跡をたどります。 (文責 竹内 宏行)



新年のご挨拶 ~2021年を迎えて

会員の皆さま、明けましておめでとうございます！

年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

新型コロナウイルスの感染が地球規模で拡大する中で、新しい年を迎えました。昨年は、感染防止のための外出自粛やマスク着用、ソーシャルディスタンスの徹底、企業や学校ではリモートワークやリモート授業を実施するなど、日常生活の過ごし方が大きく変化しました。



個人的なことになりますが、東京で働いている私の娘からも「毎年実家へ帰省していたけど、今年のお正月は帰らないことにする」という連絡がありました。日本中で、いや世界中で、多くの人々が生存の危機と生活の困難に直面している現状です。感染者数は日毎に増え続け、今後暫く減少する気配を見せません。今年も昨年同様、新型コロナウイルスの対策に追われる一年になろうかと思いますが、どうか皆さまにおかれましては、一日も早く、日常生活が戻ってきますようにくれぐれもご自愛ください。そのために、皆さまお一人お一人が、新型コロナウイルスの感染防止や拡大阻止のためにできることを今一度確認して、コロナ禍を共に乗り越えて頂きたいと願っています。

テレビを見ていますと、自粛要請や新しい生活様式など国が掲げる方針に従わぬ者を攻撃し、排除するというようないわゆる「自粛警察」と呼ばれる行動も相次いでいます。何が正しい情報なのか確信を持ってぬまま、一丸になって突き進んだ 75 年前の戦時下の光景が現在に重なるとう危機感をお持ちの方もきっといるはずですが、こんな日々であるからこそ、正しい情報を的確にとらえること、そして、現在と将来のご自分と社会のありようを俯瞰的に眺め、主体的に考え判断して、行動することを忘れないよう心がけていきたいものです。（文責 岡田 雅幸）

▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲

発行 鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会

代表 竹内 宏行・中森 成行

〒510-0254 鈴鹿市寺家 1-2-47

電話 059-388-6508

Mail ta818hi@mecha.ne.jp

▲▼▲▼▲▼▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲

市制78周年記念

戦争遺跡写真パネル展と講演会 そして、石薬師射撃場見学会

「鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会」は毎年、1942年に2町12村が合併し、軍都として誕生した市制記念日(12月1日)前後に、「戦争遺跡写真パネル展と講演会」を開催しています。今年度は新型コロナウイルスの影響により、年明けの2月13日(土)にずらして石薬師公民館で実施します。併せて、近くにある旧陸軍石薬師射撃場の見学をします。
みなさんのご参加をお待ちしております。

写真パネル展 午前10時～午後4時
(ご自由にご覧ください)

講演会 午後1時半～2時半

講師:桐生小百合さん(市民の会世話人)

演題:旧陸軍石薬師射撃場

午後1時より受付、先着順で30人までとします。

参加費は無料。



石薬師射撃場の銃座

石薬師射撃場の見学 午後2時半～4時ごろ

講演後、徒歩で現地へ。石薬師公民館から約10分。現場は足場があまりよくありませんので、ご承知おきください。



日時 2021年 2月13日(土)

会場 石薬師公民館 2階ホール

鈴鹿市石薬師2022-1



問い合わせは、市民の会・竹内(☎090-2772-1476)まで

主催:鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会
後援:鈴鹿市／鈴鹿市教育委員会